



千住博《ウォーターフォール》(部分) 1995 (平成7) 年 紙本・彩色 山種美術館

第 123 期

2021年4月1日～2022年3月31日

株 主 通 信

株式会社ヤマタネ

証券コード：9305



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに第123期（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の株主通信をお届けするにあたり、決算概況につきましてご報告申し上げます。

### 第123期（2022年3月期）実績について

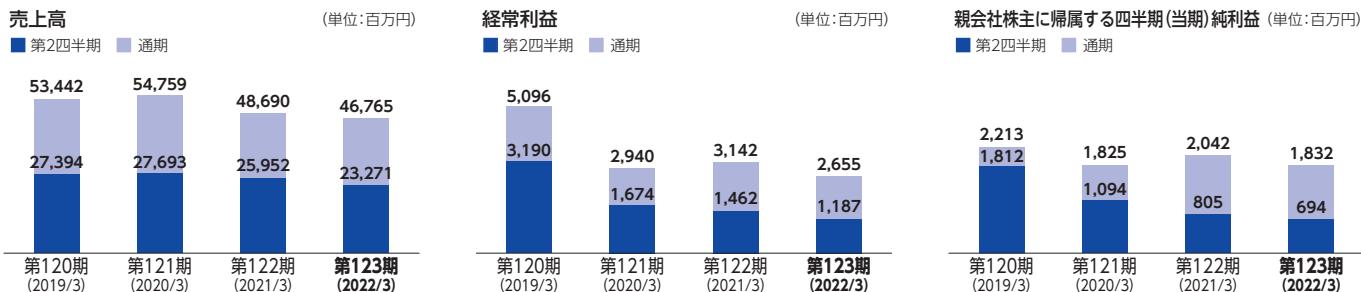
第123期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染対策を進めながら経済社会活動の正常化が図られていくことにより、景気持ち直しの動きが見られました。

このような事業環境のもと、当期の連結業績は、物流部門は国内物流が堅調であったことに加え、海外引越等の国際物流も回復基調となり、不動産部門は再開発物件の開業等により堅調な業績となった一方で、食品部門では新型コロナウイルス流行の影響により外食需要が減少し、販売競争の激化や販売価格の下落を招き、販売差益の減少や棚卸資産評価損の計上等により厳しい業績となり、売上高、利益ともに前期を下回ることとなりました。

この結果、売上高は467億65百万円（\*前期は486億90百万円）となり、営業利益は30億2百万円（前期比9.1%減）、経常利益は26億55百万円（前期比15.5%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は18億32百万円（前期比10.3%減）となりました。

\*収益認識基準を適用しており売上高の対前期比率は記載しておりません。

## 連結業績ハイライト



## 2 「ヤマタネ2031ビジョン」および「ヤマタネ2025プラン」について

当社グループは、2024年に迎える創業100周年に向け「ヤマタネ2024ビジョン」を掲げ、その達成に向け「ヤマタネ中期経営計画2022プラン」を推進してまいりました。しかしながら、世界的に感染が拡大した新型コロナウイルスの収束が見通せず、不透明な経営環境が続く中で当初想定していた事業環境が大きく変化し、中期経営計画の業績目標を修正するとともに、「ヤマタネ2024ビジョン」についても見直し、新たな長期ビジョン「ヤマタネ2031ビジョン」を策定いたしました。

同ビジョンにおいては、当社グループの企業理念である「信は万事の本を為す」に則り、当社グループのパーパス（存在意義）を見つめ直し、9年間で目指すべきビジョンを策定いたしました。そして、当社グループのバリュー（提供する価値）を示すとともに基本戦略を策定いたしました。基本戦略では既存事業を「コア事業領域」とし、新たに進出する領域は「チャレンジ領域」と位置づけ、将来の収益源育成を図ることとし、また、攻めと守りのガバナンス体制により、社会的価値と経済的価値の両立を図ってまいります。

また、「ヤマタネ2031ビジョン」に基づき、第1フェーズとして2022年4月から2025年3月までの中期経営計画「ヤマタネ2025プラン」を策定いたしました。新中期経営計画では、スローガンを「創業100周年に向けて、豊かな社会づくりにチャレンジしていく」とし、方針を定め、財務目標および部門別目標を策定しております（詳細は、長期ビジョン（P5）・中期経営計画（P6）をご覧ください）。

当社グループは、変貌する外部環境の中でサステナビリティ経営の高度化を目指し、新たなビジョンの実現に向け、グループ一丸となって取り組んでまいります。

## 3 第124期（2023年3月期）の展望

第124期につきましては、新型コロナウイルス流行の収束は未だ見通せないものの、感染症対策を実施しながら社会経済活動は徐々に正常化に向かうと予想される一方、2月以降のウクライナ情勢等により世界的にエネルギーや食糧の価格等が高騰し、日本経済への影響は先行き不透明な状況が続くと見込んでおります。

このような状況下で、2023年3月期の業績につきましては、売上高521億円、営業利益28億90百万円、経常利益26億50百万円、親会社株主に帰属する当期純利益14億20百万円を予想しております。「印西精米センター」の稼働に伴う減価償却費やM&Aに伴うのれんの償却があり減益の計画ですが、堅調な物流部門や不動産部門の増益もありEBITDAではプラスを見込んでおります。新たな中期経営計画の初年度として計画達成に向け、経営方針に則り着実に施策に取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、何卒一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2022年6月

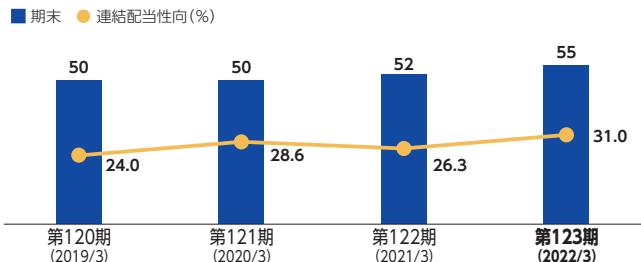
代表取締役社長

山崎元裕

セグメント別売上高



配当金/連結配当性向の推移

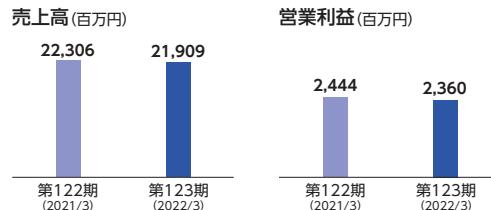


安定配当の基本方針を維持しながら株主の皆様への利益還元を強化するため「累進配当」を行うこととしております。

## 物流部門

■ 売上高 **21,909**百万円 ■ 営業利益 **2,360**百万円

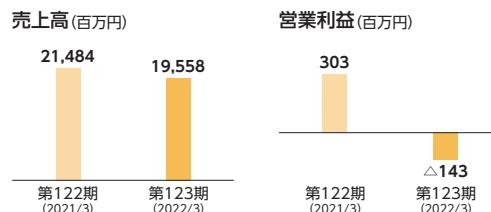
国内物流は、新型コロナウイルス流行の影響により業務用飲料等の荷動きは引き続き低調となり、また、巣ごもり需要が一巡したため家電製品等の荷動きも減少しましたが、新規顧客の獲得に加え、作業費用や運送費用の削減等採算向上に努めました。国際物流では、海外引越を中心に取扱い案件は回復傾向にあり前期を上回って推移したほか、物流不動産では新規顧客の獲得により稼働率は向上いたしました。この結果、売上高は219億9百万円(前期は223億6百万円)となり、営業利益は「印西アーカイブズセンター」の稼働による減価償却費の計上があり23億60百万円(前期比3.4%減)となりました。



## 食品部門

■ 売上高 **19,558**百万円 ■ 営業損失 **143**百万円

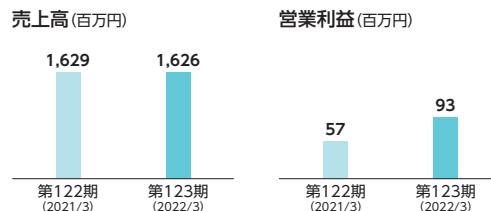
食品部門は、外食や事業所給食向けの販売が減少し、さらに量販店向けの販売競争激化の影響もあり精米販売は56千玄米トン(前期比7.5%減)となりました。一方で玄米販売は、一般小売店や他卸売業者が令和3年産米の取引価格の下落を受けて調達を積極的に行ったこと等により22千玄米トン(同49.0%増)となり、総販売数量は78千玄米トン(同3.5%増)となりました。この結果、売上高は195億58百万円(前期は214億84百万円)、営業利益は販売価格の下落により令和2年産米の棚卸資産評価損の計上をしたこともあり、1億43百万円の損失(前期は3億3百万円の利益)となりました。



## 情報部門

■ 売上高 **1,626**百万円 ■ 営業利益 **93**百万円

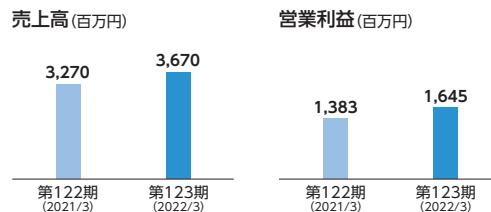
情報部門は、新型コロナウイルス流行の影響により棚卸機器レンタル事業において棚卸の縮小や中止がありました。システム開発請負案件は順調に増加いたしました。この結果、売上高は16億26百万円(前期は16億29百万円)となり、営業利益は外注コストの削減や販売管理費の計上戻入があり93百万円(同63.0%増)となりました。



## 不動産部門

■ 売上高 **3,670**百万円 ■ 営業利益 **1,645**百万円

不動産部門は、新型コロナウイルス流行の影響等で期首には既存物件の空室率が高まっておりましたが、テナント誘致を積極的に進めビル稼働率は期末に向けて徐々に回復いたしました。また、昨年8月に兜町再開発案件「KABUTO ONE」が稼働し、一昨年12月に稼働した五反野物件も通年で業績に寄与いたしました。この結果、売上高は36億70百万円(前期は32億70百万円)となり、営業利益は16億45百万円(同18.9%増)となりました。



# 「印西精米センター」 開設および 「建築物省エネルギー性能表示制度」 (BELS) 認証取得のお知らせ

当社は千葉県印西市において「印西精米センター」を開設いたしました。当センターは、国内最大級となる年間生産量70,000トンを実現するだけでなく、機械設備を立体的に配置し、工程間を自由落下で結ぶことによるお米の搬送設備動力の低減や、最新の機械設備導入による省エネ化により、環境負荷の低減にも配慮した精米工場です。また、当センターでは、無洗米の製造過程で発生する排水を飼料業者に依頼し、飼料原料として再利用することで、廃棄処理エネルギーおよび、CO<sub>2</sub>の削減に寄与します。

なお、当センターは、「建築物省エネルギー性能表示制度 (Building-Housing Energy-efficiency Labeling System)」の最高ランクである5つ星および「ZEB Ready」の評価を取得しております。一次エネルギー消費量を省エネ基準の50%以下まで削減した高い省エネ性能を有し、環境負荷の低減に配慮したオペレーションのもと、更なる「安全・品質・効率を重視した生産管理体制」を実現いたします。



▲外観

## 施設概要

所在地	千葉県印西市つくりや台二丁目1番1
建築面積	8,190.40㎡
延床面積	12,413.36㎡
主要構造	鉄骨造
階数	地上2階建
主要設備	精米設備、無洗米加工設備、定温玄米倉庫 (1,184.73㎡)
開設時期	2022年2月

# ヤマタネ 2031ビジョン

PURPOSE  
存在意義

多様な人材が集い、社会に貢献する力を生み出す

VISION  
9年間で目指す姿

物流と食の流通を通じ、より豊かな社会づくりにチャレンジしていく

VALUE  
提供する価値

企業理念に基づく「信義・信頼・信用」のサイクルを原点に、  
バリューチェーン上の各ステークホルダーとの適切な連携・協働を通じて、  
社会に安心と安全、効率性を提供する

新たなサービスへの取り組みや、社会課題を解決する2つのソリューションを構築する

チャレンジ  
領域

新たなサービスへの  
取り組み

食の安定供給ソリューション

- ・食品量販店のセンター運営
- ・サプライヤーからの調達物流
- ・食の簡便化志向に対応した加工食品
- ・ブロックチェーンによる食の流通の合理化

循環資源ソリューション

- ・事業の再生可能エネルギー化を推進
- ・静脈物流を基盤とした3Rの推進
- ・食品ロスに対する取り組みを推進
- ・ブロックチェーンによる安心の確保

既存の4事業を維持・強化し、持続可能な社会の実現に貢献する

コア事業  
領域

物流部門

- ・荷主のサプライチェーンへの対応力向上
- ・老朽化した物流施設のスクラップ&ビルド
- ・コールドチェーン（低温物流）への参入

食品部門

- ・持続可能な営農に向けた産地連携の強化
- ・マーケティングの強化による付加価値向上
- ・サプライチェーン全体の効率化

情報部門

- ・メインフレーム技術の競争優位性を維持
- ・幅広い分野のシステム開発力を強化
- ・デジタル技術を基盤にDXを推進

不動産部門

- ・所有物件の再開発・バリューアップ
- ・PM等のノンアセット領域を強化
- ・高稼働率による安定的収益基盤の維持

攻めと守りのガバナンスにより、社会的価値と経済的価値の両立を図る

マテリアリティ

組織基盤

## ヤマタネ 2025プラン

## 創業100周年に向けて、豊かな社会づくりにチャレンジしていく

## 方針

- 1 「チャレンジ領域」と「コア事業領域」に分け、経営資源を適切に配分し規模を最適化する
- 2 環境に配慮した事業活動を推進し、社会に安心と安全、効率性を提供する
- 3 これまで築いてきた資本（財務、製造、知的、人的、社会関係、自然）を基盤に、長期的な展望に基づいた事業展開を行う

## 目標値

財務目標 ROE **5%**以上 配当性向 **35%**以上 売上高 **565** 億円 営業利益 **32** 億円 EBITDA **66** 億円

## 部門別目標

## チャレンジ領域

## 物流部門

- 新たな事業領域への進出のため、食品量販店センター運営等に取り組む

## 食品部門

- 気候変動リスクや消費者ニーズの変化を踏まえ、新たな品種や商品の開発に着手する

## 情報部門

- 棚卸機器レンタルのノウハウが詰まったスマホ用棚卸アプリを提供し、幅広い顧客の棚卸ニーズに応える

## 不動産部門

- 倉庫業併営を活かして物流不動産等の仲介ビジネスを強化する

## 管理部門

- 本社が所在する越中島地区の再開発の方向性をまとめる

## コア事業領域

## 物流部門

- 荷主やサプライチェーン上の各プレイヤーと連携・協働し、物流の効率化や高度化を目指す
- 収益力向上のため、新倉庫の開設や既存倉庫のリプレイスを行う

## 食品部門

- 米流通の各段階において品質と安全性を保ち、安心できる商品を消費者に対して安定的に供給する
- 生産・流通コストの低減を追求し、産地との結びつきを強化する

## 情報部門

- DXに必要な技術を提供するパートナーとして、幅広い高度なITスキルを有する技術者を育成して顧客に供給する

## 不動産部門

- 所有物件の品質（安全性・利便性・快適性・環境性）を高め、不動産価値を向上させる
- 不動産管理をクラウドデータベースによって効率化し、プロパティマネジメント領域のビジネスを拡大する

## 管理部門

- 教育・研修などの人的資本への投資を拡充するとともに、専門能力や経験を有する高齢者雇用や女性管理職の登用を推進し、多様な人財基盤を構築する
- 取締役会がリスクと機会の実態を把握・監督できるようにガバナンス体制を強化する

2022年夏、山種美術館では水をテーマとした涼やかな展覧会を開催いたします。四方を海に囲まれ、湿潤な気候で降水量の多い日本では、水は身近な存在であり、古来、名所絵や山水画、物語絵など、さまざまな主題の中で描かれてきました。本展では、雨を描いた名作で知られる歌川広重の浮世絵《名所江戸百景 大はしあたけの夕立》から、画家の代名詞にもなっている千住博の「滝」シリーズまで、

**展覧会名** 【特別展】水のかたち  
—《源平合戦図》から千住博の「滝」まで—  
【特集展示】日本画に描かれた源平の世界

**会期** 2022年7月9日(土)～9月25日(日)  
※会期中、一部の作品を展示替えいたします。

**会場** 山種美術館

**主催** 山種美術館、日本経済新聞社

**開館時間** 午前10時～午後5時  
(入館は閉館時間の30分前まで)

**休館日** 月曜日  
[7/18(月)、9/19(月)は開館、7/19(火)、9/20(火)は休館]

**入館料** 一般1,300円・中学生以下無料(付添者の同伴が必要です)  
【夏の学割】大学生・高校生500円  
※本展に限り、通常1,000円のところ半額。  
入館日時のオンライン予約ができます  
(詳細は当館Webサイトをご覧ください)。

さまざまな水のかたちを描いた作品をご紹介します。

また、特集展示として、昨今、大河ドラマやアニメで注目を集めている源平の物語に取材した日本画を取り上げ、なかでも水が大きなテーマになっている小堀鞆首《那須宗隆射扇図》や、源平のヒーロー・源義経を描いた安田靉彦《平泉の義経》などをあわせて展示します。

**お問い合わせ** 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

**URL** <https://www.yamatane-museum.jp/>

## 今後の展覧会

【特別展】  
没後80年記念  
竹内栖鳳(仮称)  
10月6日(木)～12月4日(日)

【特別展】  
日本の風景を描く  
一川合玉堂から田淵俊夫まで(仮称)  
12月10日(土)～2023年2月26日(日)

## ● 株主優待

基準日	保有株数	継続保有期間	優待内容
9月末日	100株以上	—	山種美術館カレンダー1部 贈呈
3月末日	300株以上	—	当社製品プレミアム米2キロ 贈呈
3月末日	300株以上	5年以上(*)	厳選こだわり米2キロ 贈呈

(\*) 5年以上継続保有の株主様とは、3月末と9月末の株主名簿に連続して11回以上、同一株主番号で記載された株主様といたします。  
(\*) 3単元(300株)以上の株式を5年以上継続して保有している株主様は、プレミアム米2キロに加え、厳選こだわり米2キロの合計4キロを贈呈いたします。

## ● 株主メモ

**事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
**定時株主総会** 毎年6月開催  
**基準日** 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

**株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
**株主名簿管理人** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
**事務取扱場所** (郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社  
証券代行部

(インターネット ホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

**単元株式数** 100株  
**公告の方法** 当社のホームページに掲載する。  
<https://www.yamatane.co.jp/>  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して公告する。

(電話照会先) ☎ 0120-782-031

上場証券取引所 東京証券取引所

### 株式に関する住所変更等のお手続きおよびご照会について

証券会社の口座をご利用の株主様は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。  
証券会社の口座をご利用でない株主様は、上記の電話照会先までご連絡ください。

### 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といひます)を開設しております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。